

農林水産大臣賞受賞

美しい自然や文化、歴史を活かした 将来性のある里づくり

あまの さと かい
受賞者 天野の里づくりの会

わかやまけんいとぐん ちよう
(和歌山県伊都郡かつらぎ 町)

■ 地域の沿革と概要

かつらぎ町は和歌山県の北東部に位置し、町の中心部を紀の川が東西に流れている。面積は151.73km²、東西14.7km、南北29.3kmとなっている。

産業は特に農業が盛んで、近畿でも有数の農業規模を誇り、年間を通じて様々なフルーツが栽培されている。

天野地区はかつらぎ町南部にあり、高野山の麓の標高約450mに位置し、高野参詣の表街道として栄え、高野山ゆかりのロマンあふれる伝説と源氏や平氏に関わる史跡が点在する等、自然や文化・歴史に恵まれた地区である。純農村地域であり、ほ場整備はほぼ完了している。近年は専業農家が減少し、兼業農家の割合が高くなる傾向であるが、米・高原野菜・苺・バラなどの栽培が盛んである。きれいな水と豊かな土で作る米は「天野米」として有名で、天野の自然や環境の良さに魅せられ、他府県からの移住希望者も後を絶たず、創作活動の拠点として移住した陶芸家もいる。

■ むらづくりの概要

1. むらづくりの基本的特徴

(1) むらづくりの動機、背景

- ア 世界遺産「丹生都比売神社」の初詣客と天野の里への観光客

第1図 位置図



※ 白地図 KenMap の地図画像を編集

第1表 地区の概要

事項	内容	
地区の規模	集落	
地区の性格	地縁的な集団	
農家率 (内訳)		33.0%
販売農家数 (内訳)	総世帯数	282戸
	農家数	93戸
	専業農家 1種兼農家 2種兼農家	33戸 16戸 44戸
主要作物 (農業産出額)	水稲	73(百万円)
	野菜	55(百万円)
	花き	22(百万円)
農用地の状況 (内訳)	耕地計	81ha
	田	64ha
	畑	12ha
	樹園地	6ha
	耕地率	2.7%
	農家一戸当たり農用地面積	0.87ha

丹生都比売神社（1,700年前に創建されたと伝えられる全国の丹生神社の総本社）への初詣客は多く、10数年前から有志数名で神社のライトアップを実施していた。

平成16年に「紀伊山地の霊場と参詣道」が世界遺産に登録され、高野参詣道の町石道や天野地区も日帰り観光客が大きく増加した。

神社のライトアップを実施している数名の有志が、世界遺産登録により全国から注目が集まるうちに、より多くの観光客を呼び込み、リピーターやサポーターを増加させることについて対応策を協議した結果、観光客の集客確保だけでなく、天野地区の将来も見据えた里づくり活動が重要との結論に至った。

天野地区の自治区全体での取組を考えたが、全住民の理解を得るには相当な時間を要するため実現には至らなかった。



写真1 丹生都比売神社

イ 準備会と里づくりの会の発足

平成18年3月、里づくり活動を目指す有志が発起人となり、里づくりの会への参加を呼びかけるため11名の呼びかけ隊を結成して「どんな天野の里にしたいか」、「そのためにはどんな団体を作ったらよいか」等について話し合い、「天野の持つ長所」を再認識し、これらの長所を活かした内容の意見が寄せられた。この検討により、具体的な活動内容を絞り、取組が可能なところから順次進めて行くことにした。

こうした検討期間を経て、平成18年12月、自然や文化・歴史に恵まれた天野の里づくりの向上と振興に寄与することを目的とした「天野の里づくりの会」が発足した。

(2) むらづくりの推進体制

ア 当該集団等の組織体制、構成員の状況

形式にこだわらず、本会の設立目的に賛同する者を構成員として実施体制を整備することとなった。天野在住の者や地区内に家や土地等がある者は正会員として、それ以外の天野地区外の者はサポート会員として取組を始めた。

イ 当該集団等と連携してむらづくりを行う他の組織

○橋本・伊都「2007年問題」懇話会

この団体は、橋本市にあるNPO法人「城山台サポートクラブ」の中にあり、橋本・伊都地域の活性と多様性を創出するため、行政と協働で団塊世代の“夢作り・まちづくり”活動支援事業を推進するため懇話会を設置し、毎月1回定例会を開催して、野菜づくりについての勉強会、研修会、体験学習や施設見学等を行っている。

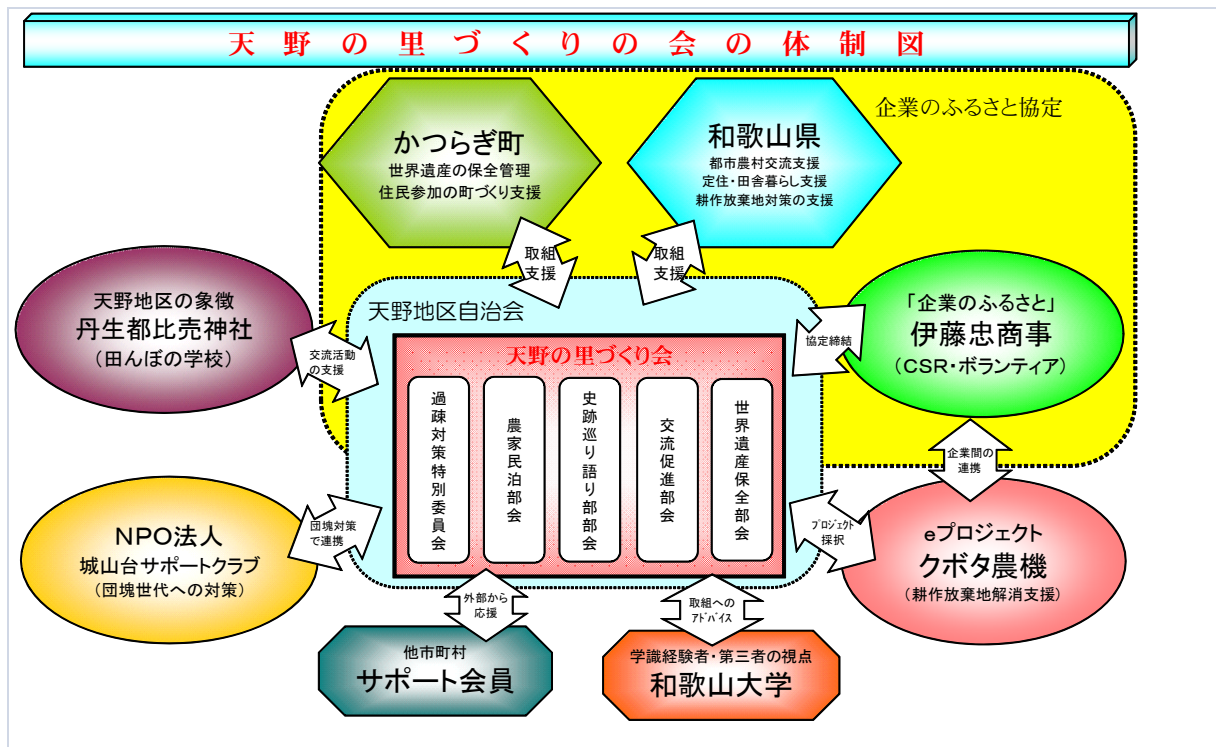
ウ 教育研究機関との連携

和歌山大学で「地元学」を軸に地域資源を生かした地域再生・活性化について幅広く

研究されている経済学部鈴木裕範氏を招き、「今後の天野の里のあり方…食と文化を生かした地域づくりと地域活性化…」をテーマとして2回の懇談会を開催し、天野地区の魅力を大切に取る取組と今後の課題や取組の方向について検討を重ねた。

今後も和歌山大学等の教育研究機関とも連携し、学識経験者等のアドバイスを受けながら、里づくりの取組を進めていくことを考えている。

第2図 むらづくり推進体制図



■ むらづくりの特色と優秀性

1. むらづくりの性格

天野の里づくりの会は、世界遺産等を含めた景観の維持保全、ウォーキングマップ作成（コースの整備も実施）、語り部の活動等を行い、豊かな地域資源を活かした取組が行われている。また、「企業のふるさと」等による交流では、天野の豊かな自然の中で体験農業や周辺の整備を実施しており、天野の里について一緒に考える活動が行われており、取組が拡大してきている。



写真2 天野の里

世界遺産と豊かな自然環境を活かしながら、外部との交流を積極的に行い、今ある美しい空間の良さをそのまま提供するような考え方の基に、様々な取組が天野地区のむらづくりとして活発に行われており、外部団体との交流と地域資源を活かした取組となっている。

2. 農業生産面における特徴

ア 農家人口の減少に対する生産面での効果

平成7年に338名であった天野地区の農家人口は、平成17年には247名まで減少したが、この間に実施されたほ場整備事業により、10年前に比べ約7割の人員で農業生産が可能となるなど作業効率が大幅に向上した。

地域資源を活かした野菜づくりについては、「美しい農村風景」、「世界遺産と歴史文化」、さらに「天野の人々の人柄」が織り込まれた「天野ブランド」として作り上げられ、新鮮で美味しく、体に優しい農産物として、契約栽培やもぎ取り体験農園による販売に加え、農産物直売施設「ようよって」等で販売実績を大きく伸ばしている。

イ 耕作放棄地の未然防止効果

「天野ブランド」を汚すまいとの気持ちから「耕作放棄地を出さない」が合い言葉となり、耕作者に支障が出た場合、天野の里づくりの会が中心となって新規就農希望者や規模拡大志向農家等への農地の斡旋が円滑に行われる仕組みとなっている。高齢化が進む中で、ほ場整備の実施地域では「天野米」の作付面積が確実に維持され、ブランド米の確保が徹底されている。

また、水田以外の未整備な農地（畑）では、その利便性の悪さから耕作放棄が危惧される土地が増加傾向にあることから、新規就農者の積極的な勧誘と農地の利用調整により耕作放棄を未然に防止してきた。より効率的かつ継続して耕作放棄を防止するための活動が必要とのことから、休耕田を活用したそば栽培とそば打ち体験を(株)クボタ等の異業種と連携しつつ、都市住民との体験交流を組み合わせ、企業も都市住民も地元住民も「三方一両得」となる取組を実施中である。

ウ 「企業のふるさと」と伊藤忠商事(株)との交流

和歌山県では農業・農村を守るために様々な取組を行っているが、平成20年度からは「食」に関心が高い企業に対し、県内の農山村地域の資源を活用しながら地域の方々と共に安心・安全な米づくりや地産地消の推進、また地域の景観保全に参画してもらう新しい取組である「企業のふるさと」の推進を図ってきた。

その第1号として、「伊藤忠商事株式会社大阪本社(以下「伊藤忠商事」という。)」と天野の里づくりの会が、継続的な交流活動を平成21年度から実施している。

伊藤忠商事では社会貢献・社員研修・福利厚生活動として、天野の里づくりの会では人手の確保・交流活動・販路開拓として位置づけられ、米づくり(田植え・稲刈り体験)や景観保全活動(ホタルの遮光ネット張り・丹生都比売神社の清掃・西行堂の清掃と植



写真3 田植え体験

樹・町石道の整備活動等）に取り組んでいる。

この取組の中で大切にしていることは、交流を深め、食事をしながら語り合う中で、天野の自然や文化だけでなく、天野住民の温かい人柄や思いに触れてもらうことで天野の里の良さを理解してもらうこと、そして、天野の里を第2のふるさととして感じてもらうことである。

「企業のふるさと」に取り組み、天野の住民は「天野の里」の良さを再確認するとともに、自分達が住んでいる所に今まで以上に自信と誇りを持つことができたと考えている。

エ そば栽培

天野地区は標高450mで昼夜の寒暖差が大きく、そば栽培に適した土地である。

そば栽培とそば打ち体験を企画し、取り組んでいる。そばの種をまき、栽培し、刈り取り、脱穀する。最後は栽培したそばを使って自らそばを打ち、食べる企画で、何度も天野を訪れて四季折々の自然を満喫する内容となっており、毎年20～25名の参加希望者がある。

また、「そば遊び・食味イベント」をそば打ち体験と同時に開催し、天野地区のお母さんたちの助けを借り、そば団子やそば粉パンケーキ、そば饅頭やそばの柏餅等を参加者自らが作って食味をするもので、多くの参加者がある。

そばを収穫する作業は重労働であり、栽培面積の拡大が困難であったが、(株)クボタが行う社会貢献活動「クボタeプロジェクト」により大型汎用コンバインを借りて、収穫することにより栽培面積の拡大を行っている。



写真4 そばの刈り取り

オ 女性の経営参画

「企業のふるさと」による交流活動、特に昼食時の交流は、双方の情報交換や交流の場として大変貴重な時間となっている。

特に地産地消を推進しようと考え、天野米のおにぎりや胡瓜やトマト、茄子等の野菜で作る田舎ならではの昼食は非常に喜ばれている。

また、そば遊び・食味イベントの料理づくりでは、そば団子やそばがき入りけんちん汁は勿論のこと、1年目はそば粉パンケーキ、2年目はそば饅頭やそば粉お好み焼き、3年目はそばの柏餅、4年目はそばかりんとう等を考案し、多くの参加者からは大変楽しかったという感想があった。

これらの料理メニューや食事、料理づくり体験は、女性会員が中心になって考え、実施している。発想と努力、連帯は、天野の里づくりの会の活動に不可欠なものとなっており、平成22年度からは女性会員も理事に参画し、女性の視点からの企画・提案等を大いに活用して取組の充実強化を図っている。

3. 生活・環境整備面における特徴

ア 農家宿泊の取組

和歌山県の「子ども農山漁村南北交流推進事業」は、他地域の小学生を受け入れ、農作業や農家宿泊を体験することで農業・農村を理解する事業である。この交流活動の受け入れ地域となるため、天野の里づくりの会の呼びかけで農家民泊への取組を開始した。

初めての受入れでは、子どもたちは他人の家に泊まるのが初めての経験だったので不安があったようだ。

夕食の食材を運んだり調理を一緒にする中で、緊張も不安もなくなり、夜にはいろいろなゲームで楽しんだ後、天野の里の話をした。

翌日、天野農産物直売所「ようよって」の広場に集まったみんなの顔は笑顔で一杯で、そんな子どもたちの顔を見て、農家民泊として受け入れた農家も嬉しく、たった1日の受入れだが、元気な子どもたちで天野の里に活気があふれた。

イ 移住希望者の受入れと世話

和歌山県主催の「和歌山田舎暮らしフェア in 大阪」に出席して、田舎暮らし希望者に天野の里の良さについて説明し、移住を呼びかけた。近年は、毎年1家族程度の定住受入れがある。移住希望者が多く、空き家や宅地等の紹介、案内を行っている。今後も、天野地区の活性化のため人材確保を進めていくこととしている。

ウ 過疎対策特別委員会の設立

移住希望者に対する受入れや住居や農地等の斡旋・紹介等の取組を始めたことにより、空き家はあるが、貸してくれない等の課題が明らかになった。

天野小学校の児童減少の問題もあり、過疎問題に取り組む必要があるという機運が高まり、天野の里づくりの会の委員会として「過疎対策特別委員会」を設立し、空き家や売地のリストアップ、移住希望者の受入れ等を行い、天野小学校の児童を増やす取組を進めている。

エ 世界遺産に関するバッファゾーン及びコアゾーンの維持管理

結成初年度に当たる平成19年度から、「世界遺産に関するバッファゾーン及びコアゾーンの維持管理業務」をかつらぎ町と契約し、毎月1回、チームを組んで町石道の見回り、清掃業務を行っているほか、異常気象時には、臨時に巡回し、倒木や土砂の処理を行うなど世界遺産である丹生都比売神社や町石道及びその周辺地域の保全事業に取り組んでいる。



写真5 町石道

オ 語り部研修会

天野の文化や歴史を語り継げる継承者を育

成するために、語り部研修会を実施している。

天野の里に点在する源氏や平氏に関わる史跡だけでなく、昔から言い伝えられる史跡について「天野歴史保存会」の説明を聞きながら史跡巡りをしたり、実際の語り部の話を聞く体験を実施したり、講話を聴き学習した後、西行ゆかりの現地を調査した。会員でない天野の里に住む者や既に嫁いで現在は他所に住む者も加わり、たくさんの参加者の中、研修が行われた。

平成22年度は、京都市で、天野地区にある「院の墓（中納言の局の墓）」と「横笛の恋塚」に関係する法金剛院の「待賢門院の御陵」と滝口入道の修業寺「滝口寺」にて研修を実施した。

このような取組の中で、天野地区の知識を高め、ふるさとの良さを再確認することで、天野地区を訪れる観光客に対してすべての会員が天野地区の良さを外部に情報発信するとともに、史跡巡りの語り部を育成し、語り部活動を充実・強化することでリピーターやサポーターの確保と地域の活性化に努めている。



写真6 語り部の活動